



巡礼宿の修道院（右奥）を望む丘で

ふるさとねやがわ

「巡礼歩きは人生の楽しみ」 スペインのカミーノを歩く

パークレンジャー

まつばら ひで き
松原 秀樹さん(76歳)

第89回

私とふるさと

大東市で育ちましたが、32歳のときに寝屋新町のマンションを購入しました。自然が多くて気に入っていましたが、4年後に東京へ転勤。3年～4年のつもりでいましたが、戻ってきたのは15年前でした。

寝屋川市駅まで歩くことも苦にならず、市立中央図書館もよく利用していました。昨年春、交野市に引っ越しましたが、今も自宅から寝屋川市駅までの約5kmを歩き、周辺の飲食店に立ち寄っています。

63歳で日本百名山を完登 「次はスペイン巡礼！」

スペインの聖地に続く「カミーノ」と呼ばれる巡礼の道。名峰が名を連ねる日本百名山を制し、森を守るパークレンジャーの活動で鍛えた体力と脚力を生かして歩いた巡礼路の総距離は2600kmを超えました。

小学生の頃に姉と乗鞍岳に登り、山荘から見上げた満天の星空に感激しました。本格的に登山を始めたのは大学時代。63歳で屋久島の宮之浦岳を登頂して日本百名山を完登し、登山仲間に「次は何をを目指すの？」と聞かれて口に出たのが、夏山で出会った夫婦から聞いたスペイン巡礼でした。

スペイン北西部にあるキリスト教三大聖地の一つがサンティアゴ・デ・コンポステーラです。巡礼路はいくつもあり、2年後、標高差1200mのピレネー山脈を越える、人気の「フ

サンティアゴ大聖堂にたどり着いた松原さん



ンス人の道」に挑みました。

合言葉は「ブエン・カミーノ」 800kmを34日間で踏破

季節は温暖な5月。重さ8kgのリュックを背負って毎朝7時に出発しました。草原の丘やブドウ畑の田舎道を歩く一人旅でしたが、宗教を問わずやって来た巡礼者とかわす「ブエン・カミーノ（良い巡礼の旅を）」の合言葉に励まされました。

毎日午後2時頃には二段ベッドが並ぶアルベルゲ（巡礼宿）に到着。「歩いた後はシャワーを浴び、ビールを飲んで食べて寝る毎日。1日4000円もあれば十分」と笑います。1日25kmのペースで歩き、約800kmを34日間で踏破。「巡礼の途中で出会った仲間とゴールで再会し、感動と達成感でいっぱいでした」。

府民の森で体力と脚力鍛える 姉妹道歩き、共通巡礼者へ

体力と脚力を鍛えるため、以前か



府民の森で活動する松原さん(左)

ら府東部に広がる府民の森を歩いていました。巡礼を始めて4年目から、自然の不思議や面白さを伝え、下草狩りなどの作業で森を守るNPO法人日本パークレンジャー協会の活動に参加。「健康の維持にもつながり、体調を崩さず巡礼を続けることができました」。



今年5月には「ポルトガル海の道」を訪ね、スペイン巡礼はこれで7度目。寝屋川市からフィリピンまでの距離に相当する2650kmを歩き、「巡礼歩きは人生の楽しみ。秋にはパークレンジャーとしてのイベントが目白押しで、次の巡礼の予定は決まっています。春になったらまた行きたくなると思います。次は孫と歩くのが楽しみです」。